

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は、(こころ豊かなケアの実践と人との関わりを大切にする。)グループホームの理念は、(私たちは地域とふれあいを持ち、音楽のある生活で自分の落ちつける場所と旬のものを食べる暮らしを提供します。)	○ 理念について、職員のみでなく利用者と利用者の家族と共に、アンケートをとるなど意見を聞くことや見直しも必要。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼で、理念を読み上げ一人ひとりの意識の向上に日々取り組んでいる。	○ 現在の取り組みをこれからも続け、職員のみならず、利用者の家族等関係者と職員全員で理念の共有化をはかる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに記載していて、華族には入所時に説明をしている。地域の人々には、町の広報に広告内で掲示している。	○ パンフレットの中身や町の広報、事業所内に掲示し、家族や来訪者に掲示している。今後も、広報などに掲示して浸透を図る予定。
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地区・町内の活動には参加している。年に二回地域対象に介護教室を開催している。又、ホーム長がキャラバンメイトで地域の認知症普及活動を行っている。	○ 今後もキャラバンメイトへの参加。年2回の介護教室の開催と地区や町内の活動に参加していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かし、改善できるものについては、話し合い実施しています。	○ 月の職員会議・ケース会議などで評価内容を話し合い、改善すべきところは職員全体で意識し全体で改善に取り組むをしていく。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催をしていて。情報交換を行い地域のかたがたの意見を生かして取り入れるようにしています。	○ 今後も継続して実施していき、もっと福祉全般についての理解を推進会議の方々や、地域住民に広め、福祉サービスの理解や浸透を図りたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の役場に相談事があれば担当者に話を聞きに行っています。	○ 運営推進会議のほか、行事や地域支援事業の参加をよびかける。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が去年学ぶ機会がありましたが、今年はまだ職員なども学ぶ機会がなく、対象者も今のところいない。	○ 学ぶ機軸があったら、職員を参加させたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ゆとり事業所全体で各部署より委員を立ち上げ、虐待防止委員会を設置しました。虐待が見過ごされることのないように注意を払い、防止に努めている。	○ 各部署で虐待と思うものの事例を学び、自分たちで目標を立てて虐待防止について実践しています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時家族に説明をして、同意をもらっているが、利用者本人からは理解・納得が出来ていない。	○	必要により、成年後見制度や日常生活支援事業を取り入れる予定。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回第一水曜日に、ホーム内で職員・利用者で話し合う機会を設けている。(利用者懇談会)運営推進会議のときに報告している。	○	意見箱・アンケートの実施、公表をする。利用者懇談会で出た不満などは改善したり、要望を取り入れるようにしている。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回ホームから家族のほうに近況報告と金銭管理の報告の手紙を出している。職員の異動に関しては、報告している。	○	本人の所持金は原則持たせないようにして、金銭預かり書で明確にしている。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の窓口を設置し、対応している。職員にも報告している。	○	苦情の内容は文章にして会議などに問題提起している。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回開催しているが、活発な意見が少ない。	○	会議の内容を記録して回覧している。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整を実施している。	○	働きやすい職場環境については、職員に意見を時々聞いている。。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動・退職に関しては、利用者にお知らせをしている。	○	長期的に勤務できる職員を捜していく。職員に対しても不満などがないか聞き取りなどの調査をして、働き易い職場の環境づくりをしていく。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加者を募り、各種の研修に参加している。事業所としても年2回全職員を集めての研修会を実施している。	○	医療との連携・介護職職員としての自己評価などゆとり事業所全体研修の継続
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会が設けられている。	○	運営者は、地域の認知症ネットワーク作りには出席している。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所全体の親睦会などを開催している。ホームとしても職員同士の交流をもっている。	○	ボーリング大会・納涼会など
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	把握し努めている。	○	定期的に面談を行い、健康その他の把握に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
d 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に本人家族と話しをしたり、電話で対応したりしています。	○ 困っていることなどいつでも電話相談に対応したり、傾聴したりしている。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を把握し、必要としている支援を見極めさまざまな、サービス利用の対応に努めている。	○ 行った対応・支援について適切かどうかの意見を聞く仕組みを取り入れる。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用に当たっては、本人ではなく家庭的事情が優先されている。	○ 納得できるまでの十分な時間をかけ、サービスの理解に努めることも必要。
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの行事や季節の献立など、一部の人に限られるが対応できている。	○ 利用者それぞれの生活暦・趣味などを把握し日常のサービスに取り入れ、一緒に行っていく機会を作る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	対応できている。	○	対応はしているが、職員同士、家族・利用者の立場については、もう少し理解を深めより良い構築の関係を学ばなければならない。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	支援はしている。	○	家族の意見も反映されたサービスも取り入れる。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の人との関係が途切れないように行事に参加を声かけ会話の場を提供している。	○	定期的な家族や友人の面会や利用者それぞれの地元地域の行事への参加できる環境・機会をつくる。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないように間に入り、会話の架け橋となるようつとめ、利用者どうしが、深く係わり合いをもてるように、支援している。	○	共通して出きることをこれから探すことも必要。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一部の人にかざられるが、関係を断ち切らない付き合いをしている	○	利用者を含めた家族会を検討する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症があるため把握できていない部分があるが、毎日の生活の中での感情の変動・表現・動作の違いなど1日の流れの中での変化をとらえられるよう努めている。	○ 十分な対応が出来ていない為、利用者一人ひとりとコミュニケーションをもっと密にとり、それぞれの思い、希望を引き出し活かしていく必要がある。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、暮らし方、生活環境は本人の話を知り、家族にアドバイスをもとめ、提供して頂くように努めている。	○ これまでのサービス利用の部分については、はっきりと把握できていない人もいるため、センター方式の記録を活用して、家族との連絡、連携を密にし把握していく。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現状を把握し、各利用者の残存個脳を生かし、昔からの趣味や出きることをサービスに取り入れている。	○ 残存能力を生かすように引き続き趣味や本人の出きることをサービスに取り入れていく。
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自発的に意思表示できる利用者に関しては、できているが、全員それぞれの意見を取り入れた計画の作成には至っていない。	○ 個々の意見を取り入れ、計画を作成していくために、本人ともしっかりとした話し合いの場を作る。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケース会議を開催し、期間に応じたサービスの計画・見直しを行っている。	○ 前月計画をそのつど状態の変化に合わせて見直し、検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別には記録の記入はしているが、小さな気づき、工夫の記入が出来てなく、介護計画の見直しまでには生かされていない。	○	気づき、工夫の記入をし情報を共有し、職員同志が、密に話しをし、介護計画の見直しに活かしていく。日々の生活の中で、どんなことでも小さな行動を見逃さずに、記録する。
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	支援をしている。	○	事業所全体の行事などを開催し交流を深め、柔軟な支援をしている。
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの協力が少ない。	○	ボランティアの受け入れを拡大する。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	支援をしています。	○	地域のほかのケアマネジャーや他の事業所と連絡を取り支援しています。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協議していない。	○	地域包括支援センターなどと連絡を取るようになっている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○	各自入所前からのかかりつけ医がいて対応しています。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	○	医師に相談したり治療、診察、診断がうけられるように支援しています。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	○	医師に相談したり治療、診察がうけられています。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	○	医師に相談したり治療、診察、入院の対応が来ています。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	○	医師と相談し、家族と話し合いもして、職員で、方針を共有してターミナル・ケアをしました。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	○	医師と相談し、家族と話し合いもして、ターミナル・ケアをしました。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	住み替えは5名いたが、対応できていたとおも います。	○	老健・自宅への移動利用者がいて、関係者で話し合いを もちました。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	ことばかけや対応が、親しみがありすぎるような 感じのことがあるかと思います。	○	接遇に関して勉強をし、一人ひとりの自尊心絵おひづづ けないような声かけ言葉のかけかたを学ぶ。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	どうしたいかなど本人に聞いてせつめいをして自 己決定の支援をしている。	○	時間がかかっても、本人の意志を尊重するようにしてい る。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	職員側の都合で、支援されていることが多い。	○	利用者の希望に添った利用者主体のすごし方にするよう につとめる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	一部の人に限られているが、支援している。	○	本人の指定する美容院などの送迎を実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の人に限られているが、支援している。	○	食事後の茶わん拭きや食材の下ごしらえなどを行っている。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一部の人に限られているが、支援している。	○	特に制限はしてなくて自由にしているが、ドクターストップのある人もいる。
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの記録などしているが、きもちよい支援にはなっていない	○	時間で声がけをしてトイレ誘導などを行っている。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	定期的な週2回の入浴日に設定されている。	○	利用者本位で出きるよう検討し支援していくように、業務を含めて検討する。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	支援している。	○	自由にソファに座ったり横になったり、居室に戻ったりして休息している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一部の人に限られているが、支援している。	○	出来ていない利用者には、もっと密に話し合いその人の感情表出をとらえ支援していく。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の人のみに限られているが、支援している。	○	1人を除いて利用者本人がお金を所持していない。日用品などの必要時には、預けているお金をだして使用している。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一部の人のみに限られているが、支援している。	○	ホームの周りの草取りや、借りている農園に行って野菜などの収穫をしている。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別的にはされていないが、季節に応じて支援している。	○	さくらんぼ狩りやデパート買い物等、家族の協力を得て外出している。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の人のみに限られているが、電話の受け答えのみ支援している。	○	本人から希望があれば、職員が番号を押して話できる様にしている。手紙を代筆で対応する人もいる。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	対応できている。	○	玄関は鍵をかけず、家族等がいつでも訪問でき、挨拶をきちんとするように心がけている。
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないように取り組んでいる。	○	虐待防止委員会があり、身体拘束に付いての勉強会を実施した。活発に動かれる方には、転倒しても安全なようにマットを敷き対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開園以来日中鍵はかけていないし、自由に外に出ている。	○	外にはテーブルやいすを置いて利用者や職員が談話している。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜居室を訪問、食堂での位置確認、様子変化時には申し送りをし常時安全への配慮をしている。	○	日夜問わず、居室を訪問して所在の確認をしている。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	○	環境の定期的な点検及び整理整頓を実施している。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じた事故防止の取り組みをしている。	○	転倒のあるおそれのある利用者には、移乗時常時行き添い、車いすで自走可能で転倒の危険のある利用者には、車いす配置の確認をし、誤飲のないよう個別に内服をわけ、服薬前に名前の確認をしている。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行われていない。	○	定期的な訓練の実施
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の定期的訓練は行われているが、地域の人々の協力が得られていない。	○	地域の消防組織へ働きかけ訓練を実施する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族には入所時や面会時に話しをしている。	○	対応策の話し合い及び家族へのリスク説明
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りを言い口頭で伝え、職員の連絡ノートなどで、対応に結び付けている。	○	情報の共有をスムーズに対応し、日々の生活の中での気づきを多くするようにする。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の確認に努めているが、副作用の理解に関しては、不足している。	○	一人ひとりが高い意識を持ち、各利用者の内服薬の内訳に目を通し理解する必要がある。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックは記入実施されていて、便秘に関しては原因や影響を理解していない。	○	毎日の体操と週2回の身体を動かすレクリエーションを行い働きかけに取り組んでいる。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援している。	○	会食後の口腔ケアを実施している。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	対応できている。	○	管理栄養士のもと献立を作成し、カロリーを把握している。また、水分・食事量の記録を取り、状態の把握につとめている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルがあり実施されている。	○	新型インフルエンザの対応策など定期的な見直し、検討が必要。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理をしている。	○	毎日のまな板・布巾・三角コーナーの消毒を実施している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	工夫している。	○	玄関周りには季節の花や鉢植え・プランターを活用している。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	○	季節の花をテーブルに飾ったり、壁には季節の装飾をしている。冬には、コタツを活用している。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫をしている。	○	ソファを設置して利用者がいつでもやすんだり、会話をできる空間作りにつとめている。。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れたものや馴染のもの、好 みのものなどを持参している。	○	出来ない人への居室内対応の検討
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室に温度計を設置して管理し、排泄後は 消臭スプレーなどを使用している。	○	窓の開閉、便座の消臭操作の活用もしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	職員のいる事務所から、死角になってる部分もあ るので、居室のドアを少し開けたりしているところ もある。	○	利用者の身体きのうなどによって、居室の検討をしてい る。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	自立して暮らせるように工夫している。	○	字を読める人には新聞や苦手な人には広告を見て会話が 増えている。混乱しないように何度も説明をして、納得 いくまで話をして暮らせるようにしている。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	ホーム内飾り付けを一緒に行ったりしている。	○	天気の良い日には外に出て、草取りやプランターの花な どの手入れをしたりしている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)